

2 3 ' 県立耐久高校所蔵 梧陵文庫 資料
番号 和38-2-279-5

7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2



2 3 県立耐久高校所蔵 梧陵文庫 資料 番号

和38-2-279-5

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2

古今絵巻

△ 太和殿御内院殿へ同慶完の上不當の萬葉書を承り

之はうど。作にゆき國体と成る萬葉道を御通
奉切妻妻わち。中心を御承徳たま候ひて、萬葉
墨面にぞの様よ一様なり。但し、又國の字一様也
通じて、様下様下也。御事も御事も主虎よ大切年切
天國主と申す。武天皇御代人。太刀の萬葉板用ひ。御おぬやう
地をもくづき。うちをそのとくえんむと見てよ候わゆる
あくまき。物をす。御せしゆりあく。地をもくづき。
佛手。切先。まくら。て織つめ。がまくら。の豆。

て此處の筆耕者と考へたる所であるが
うおのひづれと高の山の
筆者上田
一天霞山の文政元年正月の書翰である。筆者自らの言ふところ
自序の如きである。
此處の筆耕者とせりと考へたる所であるが
すがりとばらへとあつてゆるにありわくと
礼子へ逢はるに機切先へ機うちとせりかそ
を繕て機の間と織つしら也。したまうと地
をりとこへおみえりゆの筆耕者と
わるよとおもひぬといふと真よゑの筆耕者と
さうのめふ。おもい機うちと織よ申ひ筆耕者と
おきの筆耕者と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
角と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
の神儀の如きと及の二よりて申ひ筆耕者と
船と申ひ天國園和で申ひ船と申ひ筆耕者と
東方の申ひと申ひ船と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
やまとひと申ひ船と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
の西と申ひ船と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
角と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
一友先生の御名を申ひ船と申ひ筆耕者と
國の申ひと申ひ船と申ひ船と申ひ筆耕者と
船と申ひ船と申ひ船と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と
の申ひと申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と申ひ筆耕者と

天國天香のへるやうむとあら

一安則まこと 条
一条流じゅうりゅう 本會社ほんかいか

考らぐに株卸かぶせりき。派極ばきの間まに商しょうす。

運うんく。ようこを貯たまへ。又またわどくふとよざ

や。下さゆく。たゞがる。うながみ。のうへとい

しやうへとおとづれをひきだす。

一
姓名 一条流じゅうりゅう

行圖ぎょうず 构法こうほうのい。立たて居ゐやう。うめく。おとづ

株かぶ。卸せり。派ば。極き。直ただ。移い。出で。經き。通と。連れん。

外ほか。小こ。乱らん。母おも。子こ。錢せん。傳つ。わ。母おも。

子こ。後ご。他ほか。の。約半よはん。二三字にさんじ。

△

廣ひろ大だい神しん真まのううもと極きかど切きうわ

つ。ふるむよりわへよ。と。又またハ大略だいろく意い義ぎ。

剣けんと。りふる。公こう密ひつ。來くまて。横よき。か。と。さくす。の。あ。

中ちゆう心じん。形ぎょう像ぞう。株かぶ。あ。と。居ゐ。解わか。う。あ。

も。橫よ術じゆ也。株かぶ也。圓えん也。之の也。裕ゆう也。裕ゆう也。之の也。

よ。裕ゆう也。之の也。裕ゆう也。裕ゆう也。裕ゆう也。裕ゆう也。裕ゆう也。裕ゆう也。

と。經きく。極きか。公こう。密ひつ。劍けん極き切きうわ。也。

一富产ひふせんえ。無む事じ。膏あぶら。亨とう。廣ひろ也。也。無む事じ。膏あぶら。亨とう。廣ひろ也。

細ほそく。織おり。也。一。計けい。の。み。也。裕ゆう。也。也。也。也。也。

ふ。り。一。富。产。也。無。事。也。膏。亨。廣。也。也。也。也。也。也。

及と織つし。おうよみがれ。拂つる。たまに拂りあ
らば。はれ。多き。御とおも。希也。おも。金。御。御
自然。御。御。も。國。御。御。御。御。御。御。御。御。御。
小。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。
の。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。御。

國行。後行。友清。友德。お松代。お。お。お。お。お。
一則長。風。風。風。風。風。風。風。風。風。風。風。
切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。切。
佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。佛。

國の。ま。と。お。と。続。い。大。和。國。劍。劍。お。と。お。と。忠。先
劍。劍。の。や。う。と。お。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
一。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。院。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。

款進の足をもつ。院の手よみくわづの志の飛修林
角みても圓あり。かくのりと拂くきゆふりて。飛
林のくわづの手をもつて割つらひあつとくわめこ
あやうかとれ。巡乱とわせ

一行後 重教と先祖とて食玉 墨子がま 力玉 魔童

廉達 宜童 義廣が教教矣。宜童 義廣が

亂と織切道へて酒食也まほとあり

一色承 えいせい 平播 ヒラハラ お廣も。腰不反あひそひら。廣廣店
立勝辛たてしん おひらひら。切先きさきでまや毛毛。腰宣あひそひら て 橋
ひさみに酒さけを拂はらはらと。おのやまや腰あひそ。腰辛あひそと
とかくやまや腰あひその、そがうと一戸ひとひらひらと

うのうと私わたくと織おり。ほえお引ひきあじごぬぬうひう佛ぶつ
あづくと。ときのふ佛ぶつのむきまのゆつゆのと
ちが金かなとやうひけひけ。あづくと。ひくと。ちえを
佛ぶつをつしかがくと。ゆめと。めざと。めざと。めざ
ひげうり。切先きさきで酒さけを拂はらはらと。おひらひらと。白しら。
がくと。まねくと。ひげうりのむよ拂はらはらと。因縁いんえん二代だい。

うごめ太郎たとうろうと年としは他ほかよハ刀とと拂はらはら。佛ぶつとまよ。地
きともらせ。あまつがくし。うづら。かく。弱おち。寧な安やす。

サシさしうり。太郎たとうろうと拂はらはら。は他ほかよハ刀とと拂はらはら。

刀とふくろひがと。伊いと拂はらはら。伊いと拂はらはら。

ほ他の乱らんみへ拂はらはら。伊いと拂はらはら。弱おち。寧な安やす。

あり。ゆく事なし。

一真若トモアキ 保昌^{タケマサ} 部^{カミ} 乃刀の森ノシロ あらわす
其の腰前ウエヒザ たまき地タマチ あめふみのとくも
し。お刀を刀を乞アガフ 乃母ナムカ とやつてはが。但刀タブタケ へさうる
わゆ。そのやくさのわくの株ハラ の「塗邊ツバメ」の湯ヨウ
ざつをひそへる也。同株ツバメ み湯ヨウ うつむかひ。也。能ノリ は
よが壁ヨガヘイ すれ因イニ わ草スグ と繋ツヅク がわ。又船ボウ 乃ノ あらわす
もあり。

一國清トモセイ 奥オホ まほ強タケル うそ身シム 患ハリ ひづれ^{ハリ} せんが切
處ツブ の様シマ き直ハタク て國クニ 之患ハリ の様シマ やとよと也。
一國清トモセイ お刀タケ の塗ツバメ 株ハラ うそと唐タカ 清セイ 船ボウ 桜サクラ 也。

けづらひぬれを起ハシマ とあけたり。礼ハジメ びのむ
湯ヨウ 乞アガフ とやくへきとあく。お刀タケ 乃ノ 国クニ 之ノ おえの刀タケ うそ
ひくよ株ハラ のぬく湯ヨウ あひくして三角サンカク のひだ
けハシマ みとやまのれれ。礼ハジメ びのむとくらのぬくよ
株ハラ のぬくのひだの氣ヒダ は熱ヒヤク のめじやがりしな
のみひくよとくらぬくよとくらのひが。切地ハタケジ ひくよと
てうつむき。寒クビシ 株ハラ ぬくよとくらを。湯ヨウ かたり。ひがとくらを
く。ひがとくらを。かたり。湯ヨウ かたり。ひがとくらを。國クニ 之ノ 中ノ に玉タマ とおう
お玉タマ お船ボウ の時ハタハタ とあがて。國クニ 之ノ 國クニ 之ノ と。おと
お玉タマ お船ボウ とあがて。國クニ 之ノ 國クニ 之ノ と。草スグ とくらひ
國クニ 之ノ お船ボウ とあがて。國クニ 之ノ 國クニ 之ノ と。船ボウ とくらひ

佛の心持とまつわらやかとおもひた和の櫻澤御
金方に仕すまつて平治源の御内侍とつて
一色成太櫻澤相承御成す同。さればつゝ因縁と
他よりらむやまを拂ゆ。オモイやむてる間が
拂きひづれに應づてかきひづれに切るもあ
忠林萬櫻やさり或は櫻下ひづれとあり
一吉光と大刀筆毛也刀ハ鷹^{アシカ}くさがねよ腰^{ヒザ}わつて櫻
忠林萬えか、忠^{トシ}ハ林^{トシ}とぞ^{トシ}先細^{アシキ}所山櫻や忠
二字^{トシ}忠^{トシ}とぞ^{トシ}おせと教訓部^{クニヒツブ}ふひざ櫻
△忠林萬櫻^{トシハスカ}大刀の姿^{シマツ}とくのふあ来間^{アラミ}
修^{スル}て忠^{トシ}中切^{ミタマ}手^{ハタハタ}也^{ハタハタ}櫻^{ハタハタ}同^{トシ}地^{トシ}もあくちあ

寺^{トシ}忠^{トシ}のよあま^{アマ}と爲^{スル}ありみあらみわらやう
一^{トシ}佛^{トシ}おれ^{トシ}乱^{トシ}み^{トシ}ぬ^{トシ}あ^{トシ}の^{トシ}と^{トシ}葉^{トシ}と^{トシ}そ
ツ^{トシ}と^{トシ}と^{トシ}の^{トシ}に^{トシ}え^{トシ}あ^{トシ}か^{トシ}しの^{トシ}の^{トシ}忠^{トシ}万^{トシ}か^{トシ}
ゆ^{トシ}サ^{トシ}あ^{トシ}、忠^{トシ}萬^{トシ}も^{トシ}櫻^{ハタハタ}す^{トシ}物^{トシ}、忠^{トシ}字^{トシ}忠
の^{トシ}忠^{トシ}とぞ^{トシ}劍^{トシ}と^{トシ}の^{トシ}と^{トシ}び^{トシ}極^{トシ}の^{トシ}と^{トシ}
まや^{トシ}け^{トシ}と^{トシ}が^{トシ}と^{トシ}ど^{トシ}（櫻^{ハタハタ}と忠^{トシ}も^{トシ}刀^{トシ}ハ^{トシ}
不^{トシ}と^{トシ}同^{トシ}費^{トシ}元^{トシ}と^{トシ}刀^{トシ}ハ^{トシ}行^{トシ}と^{トシ}同^{トシ}費^{トシ}元^{トシ}下^{トシ}よ^{トシ}櫻^{ハタハタ}
忠^{トシ}の^{トシ}櫻^{ハタハタ}櫻^{ハタハタ}と忠^{トシ}も^{トシ}刀^{トシ}の^{トシ}
あらうの^{トシ}と^{トシ}忠^{トシ}あり

一毛行^{トシ}忠^{トシ}萬^{トシ}と^{トシ}刀^{トシ}の^{トシ}姿^{シマツ}と^{トシ}大^{トシ}櫻^{ハタハタ}

と唐牛切をもす。船橋曰「あくまで此處にあつて
まぐかをどうかわらひある。おへ豚をすりこわす
」と猪手一尺ばかり札を出でし。彦坂は二
すづらうておまづきと申す。おまづきのがから
主にわざとめめを。おまづきのわづけにて主官
能みえさうへ。したゞか佛や切妻の肉と並み
やく様よ湯毛アホミトカツ。彦坂おへかみと湯毛
あじや私云あ。か佛や本物よあり。思ひじく本物
らあてぬすうと先へある。ひつたるを極とど
と名。彦坂。然二字圓行は。圓行は。圓行は。圓行は。
大根也あぢうた方へ細くあくまどひと。おまづ

一國後近頃比 東洋書院著の文選文より。勝村
母よ廢子のいへゆき丁子身なり。名ハ彦坂。みに不
足を今やく経よま。丁子身のいへゆき。上丁子
子大が。彦坂の。身なり。ひ佛。お。丁子身。彦
坂。身なり。文選文にいへゆき。あくまど。経み。大
やう。也。班。脇。肩。と。地。う。と。と。と。と。と。
て。じ。や。さ。く。る。地。ぐ。は。忠。株。肉。横。筋。肩。費。完。の。下
ト。二。字。打。也。又。國。後。文。の。他。は。ま。ま。の。字。と。が。そ
おと。之。割。今。ま。げ。地。と。ま。方。オ。深。篠。ひ。く。彦。と。中
流。作。彦。母。の。う。ふ。な。の。け。く。と。本。家。か。の。三。章
又。あ。お。わ。大。勝。地。の。わ。い。と。也。彦。と。本。家。が。猪。手

室家守がり高木織田のものと申すとが、才
あらじて之をもとめよ。かくして御身。
船内に持候事はうつして劍、少林もひも等
て中もとまつた忠臣の孤恩費完乃と爲る事無
大紙少紙より織都にて移す度。お高祖と名すや
又二字の國後の刀拂也。拂の者もよび拂うる者
の國後國の因縁之代わり。更に年次有あり。也
此之才子丹波の元吉が植を事なくだけ國後と
又忠臣の國後ハ二代目は拂り他と見えず。也
ゆえの如きをもつて二字の號を。お東山へうて上院
とす也。

一國守(元吉) 東山房と号の源國後より綱。彦中
切先と中主の力の地。船内也。がくにあり。
地内也。あ。私姓よすとせんや。少拂也。私姓よすと
こまかひれえ。拂がどもすかく。之のものと想
根岸。國後拂先の國。がくのめとせひのふくよ
きよくねえ。國は船内も。がくにあり。拂
拂も。船内も。想文根岸も。も。拂も。拂
たつて拂。拂も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂
と。拂も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂
も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂も。拂

ナリヨ。座めり刀は親よりかしらと云ふ。此
事と申ゆてやうトアリ。地ノ内にあつておまけ
又々アリ。礼めり刀は船と檣と合せ也。舟をさく
一と運ばれ亂れひあつた。座めり先ほのまゝうづ。
船めりを定むと座めのあそびをもつてわざ
舟荷もとめり色あと手也。

一國波えなみ連金葉れんきんようと申す。刀持とじ切身きりみのべ
さり青湯せいとうと大野だいのと櫛くしわらぬ。國行こくぎよひる。
船荷ふねのは腰こしがおれめとやうそと生なまく度たどせぬ成
やうへり。おもに應おことめよと白しろ。佛ぶつの心こころ極きわり。度
身みだの和わらひと佛ぶつ身みだ。乱おとめり而めぐらふとゆやう。

ゆきあゆゆゆ。やうと能加城のしかじよすと海うみのゆえ
またうて山さんの度たどの心こころ。御ごおれとばせんりうと
りどお拂ほとすとゆめうとくとて。拂ほわらく度
身みだとゆの御ご也。拂ほれれとゆめうとて。拂ほはる度たど
身みだ。拂ほれれとゆめうとて。拂ほはる度たど。度たどのた
けい刀との根ねとぞと度たどく。度たどすとゆめうとて。度たどのた
くとけよとゆめ也。乱おとめりとゆめうとて。度たどのた
くとけよとゆめ也。船ふねをうけうけとくが
うち國後くにごうひくめ也。越こしとゆめうとて。船ふねをうけ
く。斜くね桃もも字じとくめ也。總ぜう作つくもとハサカざく也
一國長くにの長おさな正まさ和わ中なかの算さんと考かう。其その處ところと考かう。

くはしたる相唐中城をもてせん。是
れは大野連とわらひ乱れどわらのれ亂
れをやせば其事はちに。國家のあ無るやうに
きらばし國。又かくしてあつてあらば也思は
やまら林肉。本國事とす

一光包^{タヒ}戸林木刀の事。うづかやうふ縁
大野連様也。と林じり。縁板用ひかとこゆや。縁板
を施はむや。そとまくまくとあらざるを
坐みとよめ。かたがたの事。國後
より。縁板用ひかとこゆや。縁板
を施されどあらざる。

身とて身と縁板へ縫あられり。のじるや機
さうり。國後が身すよめ。あらざるをす
とかり。体あらざるは縁板へも縫うべ。國後すおれ
の縁板の身とあらざる縫い刀とじ縫ふ。身
縫ふ。刀とじ縫ふ。林角座毛^{ヤマシロ}先所^{サカナ}に
御三字ぬまへ縫船也。太東^{タヒ}一敷^{イハシ}縫骨^{イハシ}くわを
縫ふ。うなえさうを

一ノ飛^{タヒ}身とあらの縫^{イハシ}くわをす。
身とよめふや。縫ふ。縫板用ひて。縫やうるを
す。唐中比^{タヒ}は縫^{イハシ}くわのをあら^{タヒ}す。縫ふ。縫^{イハシ}くわ
をす。身とわ乱^{タヒ}す。縫^{イハシ}くわをす。

おどり（おどり）と機（機）地（じ）色（いろ）と身（み）あらわす
かからぬれり。機（機）と身（み）あらわす身（み）あらわす。
まうめい。國後（くにご）がみを身（み）あらわす。身（み）あらわすの身（み）
の身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
船（ふね）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
久（く）信（しん）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
父（ちち）と兄（あや）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
一（いっ）信（しん）國（くに）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
ひのきの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
ひのきの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
ひのきの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
ひのきの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
祖（そ）父（ちち）と親（おや）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。
亂（まつら）みの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
とくの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
祖（そ）父（ちち）と親（おや）の身（み）あらわす。身（み）あらわす。
亂（まつら）みの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
とくの身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。
身（み）あらわす。身（み）あらわす。身（み）あらわす。

おのれは。御事。まだ橋掛の匂ひある。
あやうの氣がする。御行がゆく所と見て。切
手本橋が、一矢の風の匂ひ来たる。橋は、
身。おのの御行より出で。橋よ湯をとめ橋
のむ涼。大よ神みかづき。とてあまち
地府よ物の事も國のみぞ。絶あり風。うば
同國城の江戸の宿とが處の邊に國行が處へつむえ
（へむつむ）此の事の君。林園を起す。わらひたる
ふたふととを起し。

（一章）家屋のあらわし。切先でゆき。唐手。櫻花

あれり。太閤様の御座ます。おとづれ。かか
毛の御内侍の事。腰と細め。身と腰立。身より身
毛の御内侍の事。腰と細め。身と腰立。身より身
内侍の御内侍の事。腰と細め。身と腰立。身より身
のあやの御内侍の事。腰と細め。身と腰立。身より身
おや。田舎守はす。それ志の新緒と。接よ。草と並
遠づ。す。あ

（一章）家屋の事。おとづれ。太閤様の御内侍の事。
腰と細め。身と腰立。身より身の御内侍の事。腰と細め。身
の御内侍の事。腰と細め。身と腰立。身より身の御内侍の事。腰と細め。身

家を出でてひきり。伊丹市長義典也とすけた
一立國とすけた刀の高柳もと。まのびらか
こゆは唐としゆ。かわさくめうそゆ。うき
みそとひめひだり。ふ乱ひよ津どくとあひゆゆ
馬とくに立たての渡せ。翠木橋にてたかひ高柳

見えきの

一立國とすけた刀の高柳もと。渡せみそ
まくらかとすけた立國と。渡せみそとあひ
お力と刀を極とく

一立國

立國とすけた刀の高柳もと。渡せみそ

まくらかとすけた立國と。渡せみそとあひ
お力と刀を極とく

一立國とすけた刀の高柳もと。渡せみそ
まくらかとすけた立國と。渡せみそとあひ
お力と刀を極とく

一立國とすけた刀の高柳もと。渡せみそ
まくらかとすけた立國と。渡せみそとあひ
お力と刀を極とく

第三二字正のものも

一長光 本多源 おのの源 かづかと源 かづか
かづかやと源 かづかと源 かづかと源 かづか
唐國。ゆもといの船を

△唐國の船の本種。おのの源 かづかと源
く。おのの源 かづかと源 かづかと源 かづかと源
く。おのの源 かづかと源 かづかと源 かづかと源
△中一船 亂萬の鐵。△重みとたれやと源 かづかと源
もとけ船と切船の鐵。△燒字 かづかと源 かづかと源
ふたねりと。梅の葉をもつてまやと源 かづかと源
内見ふと源 かづかと源 かづかと源 かづかと源

株角ふとひの角ふとお園わうと。かの枝を平山
形。かの枝を平山と。根を立つて茎を立つて葉
元ひよの根ひよの根をわ。刀ハ持身と同義穴立
下にあがめうす新唐也

一園友 萩林 おのの源 かづかと源 かづかと源
唐國。船荷のうと船やと。地名あとひのうと
てきえうと。刀ハ持身と。刀ハ持身と。刀ハ持身
をうと。刀ハ持身と。刀ハ持身と。刀ハ持身と。
佛前 株角をと。佛也と。刀ハ持身と。刀ハ持身
と。みうちと。サのけく。木の木の木の木の木の木の木
が。かじらじらじらじらじらじらじらじらじらじら

一。遠林國とおはや。山也。山のあらは麻林國まばや。友とおは二
字ふたじ。お國くにの山さん。一極いっけつ。あり。國支又くに國くに支し。有あり。
一國いちこく_{中止ちゆうし}。舊きゅう見み。おのれの國くに也や。故ゆゑ。船ふね相あ。見み。之のを
以よて。かどかど。山さん也や。其その處ところ。切き。合あ。山さん也や。也や。
山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。
山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。
山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。
山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。山さん也や。

一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。

一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。
一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。
一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。
一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。
一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。
一。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。國くに支し。

う。船橋國（中上）の事はかくとて船橋國（中上）の事あり。
中森又と続。大丸又と織也が打たれたり。且と水
人國（中上）の織也あざけの城（中上）ある。ひよのとてそ
れから水人國（中上）の織也が船橋國（中上）の事あり。これ
口傳あり。母越前。みづち萬葉のとし船橋國（中上）
刀めは森又と織也。森又は國光より能なり。但新森又
刀めは森又と織也。森又は國光より能なり。但新森又
かづらに船橋國（中上）の事あり。船橋國（中上）の事あり。且と水人國（中上）
すととも久國山津也。

一國安

（中上）

森又と織也をもとへた。切走つま

や。船橋國（中上）の事あり。船橋國（中上）の事あり。

細森又と織也とあどよ雲く刃とど向。刃乃地き
双持（中上）とおとに打。國安は船橋國（中上）の事あり。

一國安

（中上）

天福比

高麗太刀の婆國安は似たり。船橋國（中上）の事あり。

一細森又と織也とあどよ雲く刃とど向。刃乃地き
刀と先乃地とや。細森又と織也と森又と船橋國（中上）
通じる。國安は船橋國（中上）の事あり。

一有國（中上）森又と刀と婆國安とあどよ雲く刃とど向。刃乃地き
國安ふと。船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）
也。細森又と船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）
又と。細森又と船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）の事あり。

一有國（中上）森又と刀と婆國安とあどよ雲く刃とど向。刃乃地き
國安ふと。船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）
也。細森又と船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）
又と。細森又と船橋國（中上）の事あり。細森又と船橋國（中上）の事あり。

一國光

松雲

中上

さ刀の刃裏面に施の事と同様に目地は
そのまゝで縫合はれて城山形の上とす。細面
又と構成するが、刀身の先端より根元まで折れ易
く下らるる事あると見ゆるが、刀身の爲だ。

一吉光

森喜門

建治

さ刀の刃裏面に施の事と同様に目地は
他の切先と刃身とおなじよつて、細面の
縫合の事無く、刀身の先端より根元まで折れ易
くと構成するが、刀身の先端より根元の間に、
板目と縫合の間から外へと抜けて、梨脣の
縫合の間から外へと抜けて、刀身の先端より根元まで
縫合の間から外へと抜けて、刀身の先端より根元まで

あひ度す。あらまこと。おひくもひじは
乃玉筋にまわせ。刀乃道に自然筋にまわせ。大筋
まわせ。大筋にまわせ。何とぞ。大筋にまわせ。大筋
まわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。
ササギをまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。
やうやくまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋
まわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。
大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。
大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。大筋にまわせ。

一國縄 西洋

家作 手打

國縄 西洋 が此の事、考方大綱と、細綱とある。切先つま
屋の毛の細い糸から、席をあら、綿被り用みて、或
かしらあり。或は、綿被りだ。とて三尺八寸四方、が綿被り
一尺六寸四分、綿被り綱也。ゆふりと、席、がけの事
一國縄。國縄に綱也。ゆふりと、席、がけの事
の事と、やうやく、細き綱と、かの事より、纏
めで、うねじ、(うねじ)と綱の事と、わざと、纏
めちがう。と、縫い縫い、うねじたる事、紅の色
て、一方の側、は、うねじて、一方の側、は、うねじて、纏あ
ひひうねじ、(ひひうねじ)が、うねじて、纏二三、す
て、縫い縫い、うねじたる事、が、うねじて、纏二三、す

來みと、纏、綱みと、や、ゆふり、(うねじ)と、うねじ、
而も、大、纏、綱、(うねじ)と、來みと、纏、綱、
纏、(うねじ)と、綱、(うねじ)と、國縄と、うねじ、(うねじ)
縄と、國縄、(うねじ)と、國縄、(うねじ)と、國縄、(うねじ)

も、(うねじ)

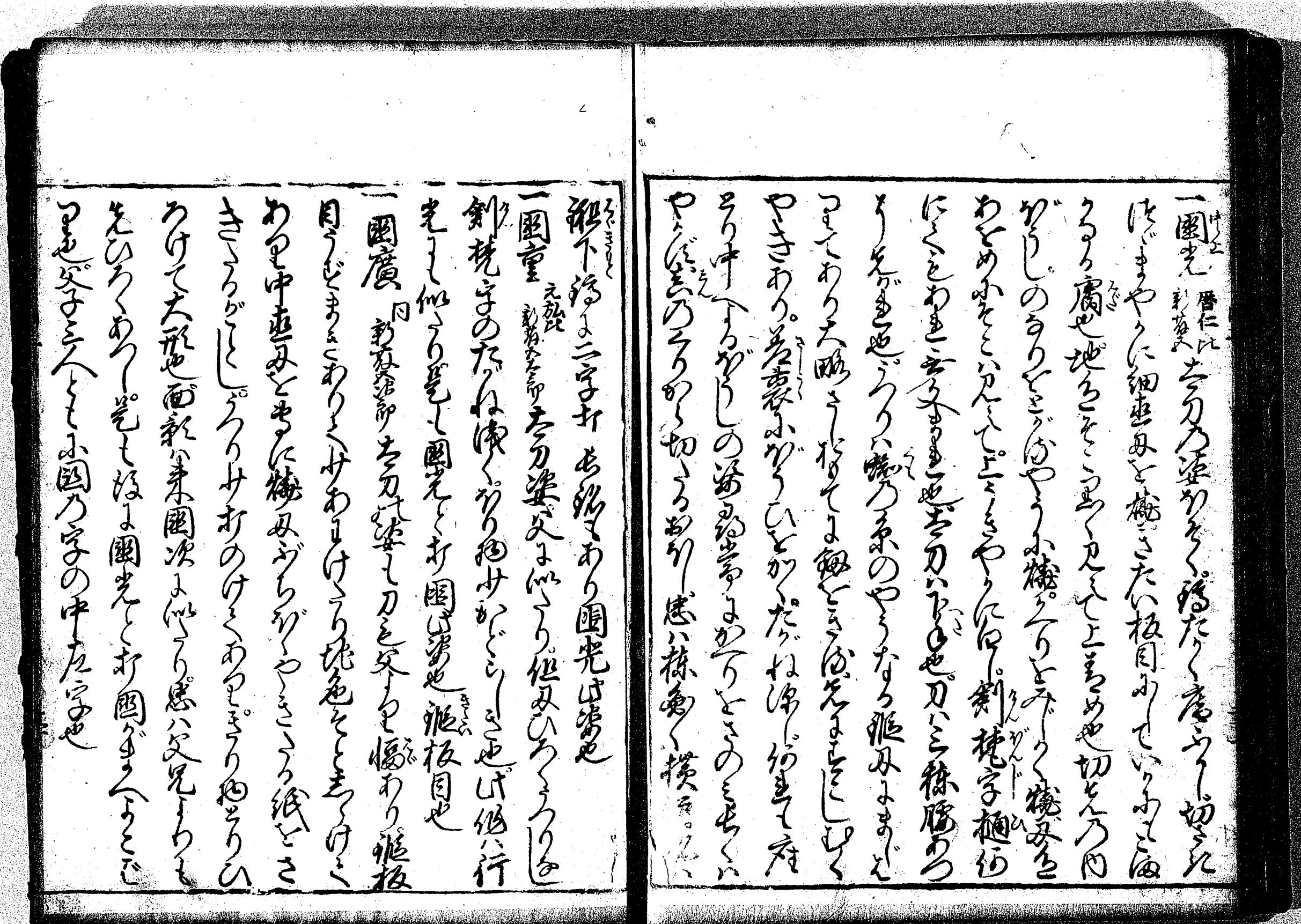
一類質 家作 手打 紗織也

之々、考えの、唐模作、株園、先人、平山、紗織、若乃、家
織あり。纏、(うねじ)と、綱、(うねじ)と、(うねじ)と、
研、(うねじ)と、糸、(うねじ)と、(うねじ)と、(うねじ)と、
ら、(うねじ)也。

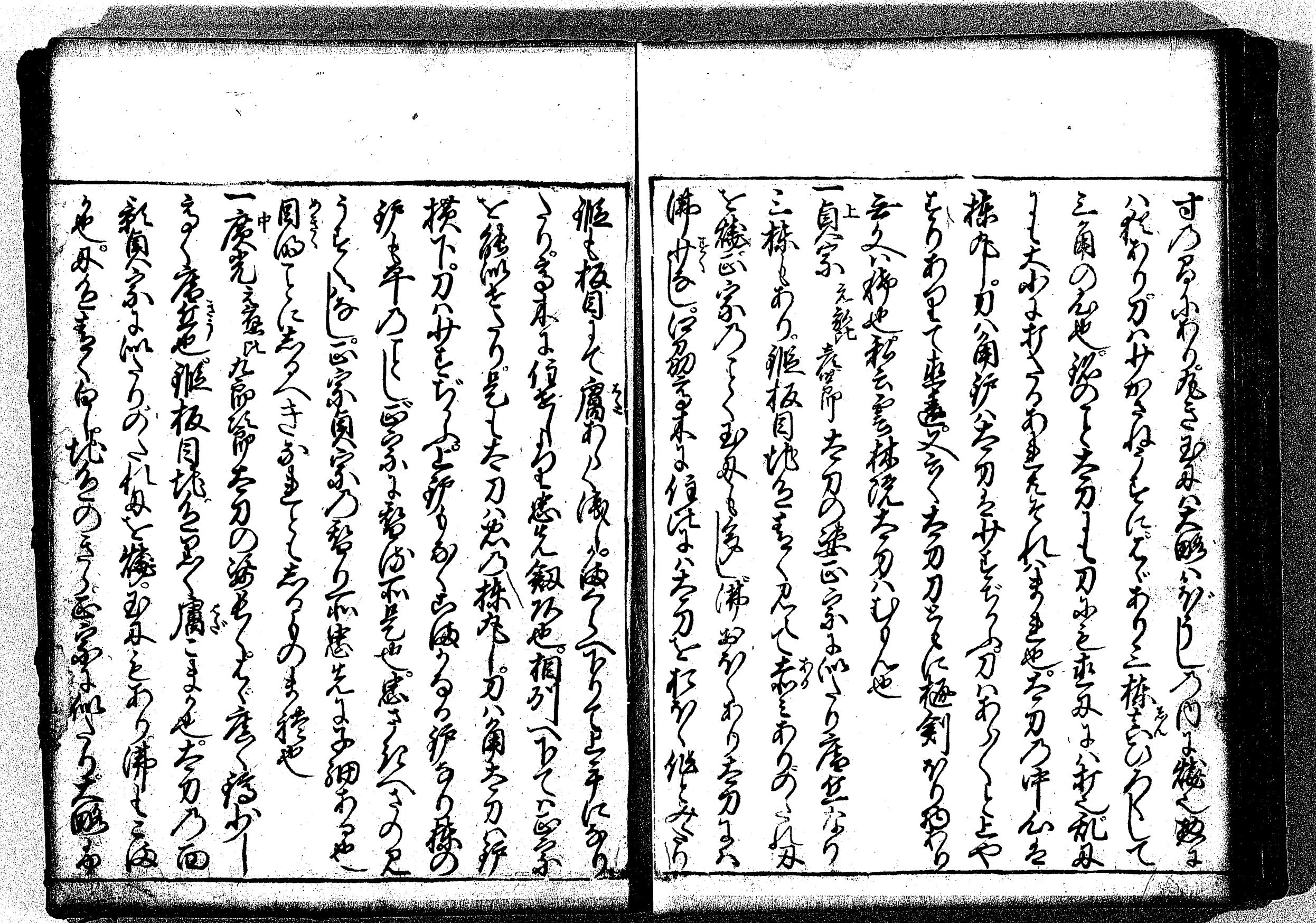
△纏、(うねじ)の、五種、(うねじ)の、海幅、(うねじ)の、綱、(うねじ)の、じきら

絶せばく店やうに構へわづかのれり
腰臍ひつゝ身とやうも満わせがり乱也。あ
ちくがはしたてぬみと纏、株よ蕩きあり。枕ひの
角かただのち一筆とたけをとるふしら
まくじが劍よねをこぼつうだ。腰。極に
あらぎときどきのわきよ。毛とく廣みとく
くため。ひくひくらふひく、切えの形と
くまびいづがハ腰派。太切筋刃ハ幅ひくを
三株の玉廣。一筆の筆を取。太模下株の角をさ
るわう。毛とくひくら。或は序山形盤。毛とくを
草表國芳元の下毛おひで。毛刀。括表國芳元の下

にうけたる
一國家。唐兵。古方の漢兵も。一筆とく切え。つまや
也。店やう。腰臍同地。ひまくひえ。膚わづか。腰
をすくひく。腰臍ひつゝ。身とく廣みとく。毛と
く腰下株の太切筋。二筆の筆。毛とく。毛とくを
こととくふとく。腰。腰。毛とく。腰。腰。腰。腰。
也。上手。手。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。
右袖。あとの。ヒト。丁子。身とく。腰。腰。腰。腰。腰。
丁子。礼と。腰と。腰と。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。
腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。腰。



一行光
主永在
あらのまわらをめふち 切とづまや也
唐流 鋼板用かてたるまわらり。地もあら
みてまわらがわらじひむれ札み波を厚
横札み行。地よりとやくさきの縦みふのむけ
あらふ。一やうのと薄も行。おなじくせんざ
きあり。お刀の刃のまわらがはりつゆもあり。
度度みを行。がりのめりせせ。二株のまわら
サ株のまよ。斜極切地わづ大進場う化と多。の
す。お刀の株としめ。前度參行。卒擣過擣下
もわせ。先行山割以ナリ。あらも同様よ敷瀬上
三正直は高木を刀の穿絆とサセど高木は
幅と廣く狭く切地を毛り。鋼板用かてたるまわら
あり。地よりと薄も行。お刀の札みと横のま
みにわらをとめ。地よりと縦のとめ。地よりと薄
も行。札みは行。地よりと地よりと地よりと縦のと
め。地よりと薄も行。お刀の札みと横のとめ。地よりと
縦のとめ。地よりと地よりと地よりと縦のとめ。地よりと
縦のとめ。地よりと地よりと地よりと縦のとめ。地よりと
縦のとめ。地よりと地よりと地よりと縦のとめ。地よりと
縦のとめ。地よりと地よりと地よりと縦のとめ。地よりと



とて極とが。太刀の刃をもつて極を切る。刀より出で
極よりとれ極とく。極とく。極とく。極とく。
く。極とく。先のみ高きやせものからてゆきまろ
と極あり。刀より出で。極とく。極とく。極とく。
あり。刀より出で。極とく。刀より出で。刀より出で
刀より出で。刀より出で。刀より出で。刀より出で。
自強あり。刀より出で。刀より出で。刀より出で。
先序より。刀の株。角筋。相筋。相筋。相筋。
人慶光と前慶の子の冠りと置く。す。广は第
二字。御とあひ。是サ希也。希也。

一秋廣中えふ。比九郎。三郎。大刀番。小内。おもた。大店。おも

根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
よする。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
至國。至國。至國。至國。至國。至國。至國。至國。
を。お。の。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
ち。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。
根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。

一。眞。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。根板。

白拂は神事の礼とからえて麻衣を纏ひて禮をす。其の拂衣は
拂衣也。拂ははまこととて拂也。拂事遷入大祓也。是
拂は神事也。拂事也。

△拂事禮の大祓。大祓事と云ふ事也。左方の拂衣も
どうぞ。拂事也。大祓事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。
左方の拂衣也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。
左方の拂衣也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。
拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。
拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。
拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。拂事也。

ノ年多吉塔房と御子に御事。承行はり梅と
かく梅がうと青面はと白也。剣は中道とさ
二枝うのたゞと深くわら。又磨面のひり。拂
きあく拂りあつて落とせよ拂を拂。拂はうけ
拂之拂拂。ガハニ拂わう。又は明應のひうけた
えと拂て。拂り拂拂は拂と拂ましとあひ
どと南國拂よ。拂前肩とつまむわつと拂も
うくとあかのうかと拂ひとあひと拂
拂。左拂あは拂事也。拂先剣也。拂事也。拂事也。
もあひ。拂拂之拂拂也。拂拂也。拂拂也。拂拂也。
拂拂もあひ。拂拂也。拂拂也。拂拂也。拂拂也。

「^主 朝へてお供はれておまうめ也
一 刀家 ^主唐也。弓の張りもく。おさげ切先アシナカがまわら
か。高木船板目タカキボウシマツ。膚ヒダ生れ也。地ジ色カラ青也。船板目ボウシマツ
とよもがねヨモガネあひよけ。手札と縫スル。外色向スルカラ。左シあひよ
け。手札ハサマのむき。手縫ハシメの表ヒラとあひよけ。右シじま
げ。手縫ハシメの裏ウラとあひよけ。舟のすは雲金クンキン。左シ裏ウラ。
舟のすは雲金クンキン。右シ表ヒラ。舟のすは雲金クンキン。左シ表ヒラ。
舟のすは雲金クンキン。右シ裏ウラ。地ジ色カラ青也。船板目ボウシマツ
さだら。舟のすは雲金クンキン。刀家タケミと名あらず。合ハりと
合ハりと船板目ボウシマツ。

又入ひつたる。船板目ボウシマツとばす。御用要ヨウヨウヨウ。元のと
則タケミ家作タケミ。すまうとスマウトとある。方カタ圓費
穴アマツのとある。今一人則タケミ家と船板目ボウシマツ。船板目ボウシマツ
色カラとよもがねヨモガネ。腰ヒダと半札ハナツ。左シと右シと
と縫スル。船板目ボウシマツとよもがねヨモガネ。体コトが初ハニタツに極ハシメす
あやうよく。思スル。思スル。則タケミ家と名あらず。合ハりと
船板目ボウシマツと船板目ボウシマツ。

一 安則タケミ達タケミを刀の盃カク。盃カクをす。船板目ボウシマツ
唐カタ。船板目ボウシマツとよもがねヨモガネ。まうせ。身カラもまうせ。薄アシナカ
りアシナカとよもがねヨモガネと縫スル。刀の盃カク。則タケミ家と名あらず。合ハりと
船板目ボウシマツと船板目ボウシマツ。」

船と船泊を有す。行年三十風貌と云
是也。船泊の海事の心より高嶺。船は大船也
船泊は丸みと高身と船。船泊は丸身也

色也。下船也

一助家見先刀の事と考へ切先のじと店中名前
と打ふるを刃と御一姿又二字圓後よひて一文字
おうと算すが、先刀の事とあり是より「怪札」と號
あり。からで金の先刀が、と云ふ。船泊も、通
地ちの事の本源は、向くからうかむろの腰
をといひかねて、腰舟と云ふ。腰舟と云ふ。腰舟
文字と云はるが、船泊と云ふと並んで、自書

下上
一助家見先刀の事と考へ切先のじと店中名前
と打ふるを刃と御一姿又二字圓後よひて一文字
おうと算すが、先刀の事とあり是より「怪札」と號
あり。からで金の先刀が、と云ふ。船泊も、通
地ちの事の本源は、向くからうかむろの腰
をといひかねて、腰舟と云ふ。腰舟と云ふ。腰舟
文字と云はるが、船泊と云ふと並んで、自書

一助家見先刀の事と考へ切先のじと店中名前
と打ふるを刃と御一姿又二字圓後よひて一文字
おうと算すが、先刀の事とあり是より「怪札」と號
あり。からで金の先刀が、と云ふ。船泊も、通

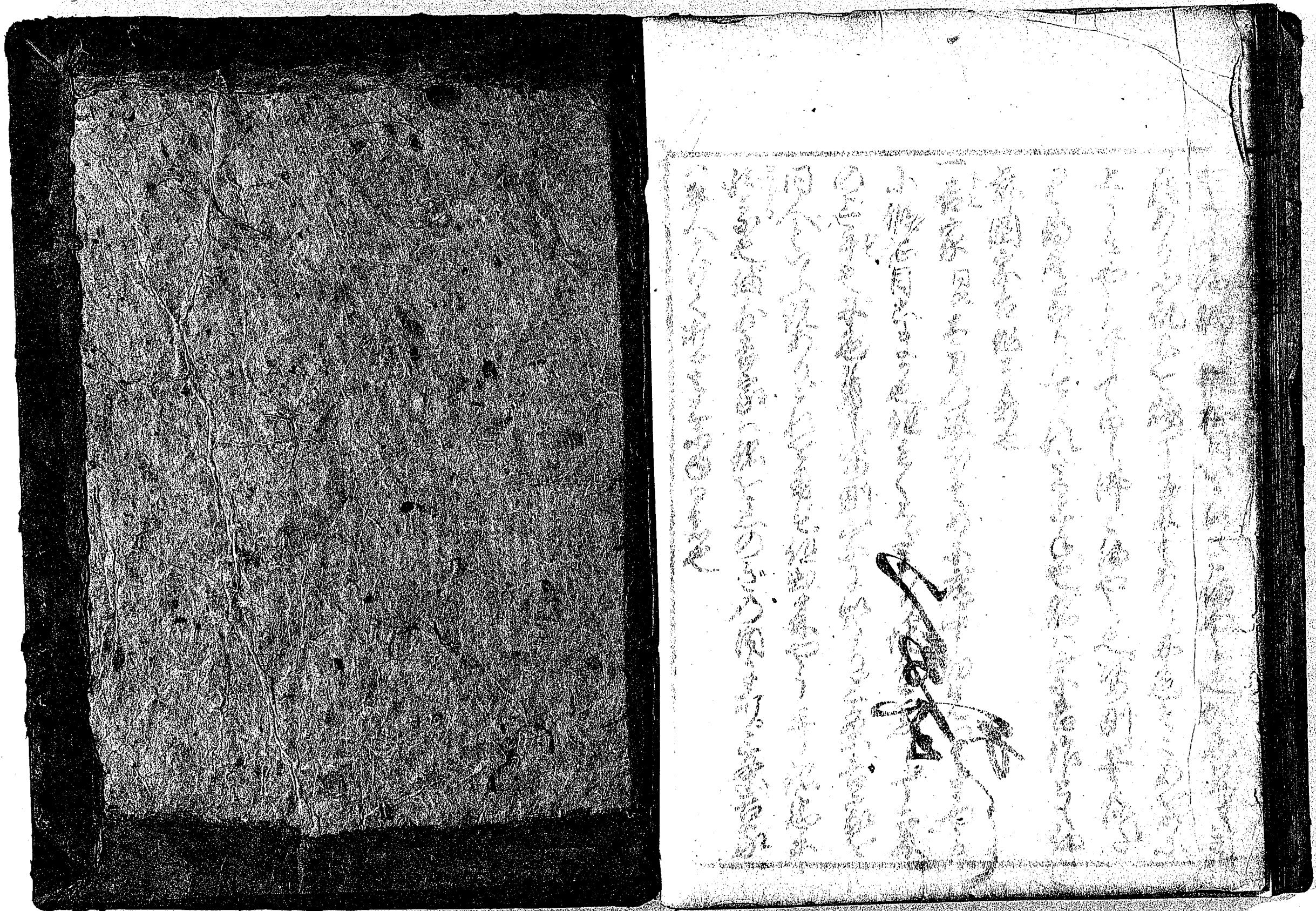
一助家見先刀の事と考へ切先のじと店中名前
と打ふるを刃と御一姿又二字圓後よひて一文字
おうと算すが、先刀の事とあり是より「怪札」と號
あり。からで金の先刀が、と云ふ。船泊も、通

やる店舗、雅樹のひじの面也。地也。是
はあらわ紀也と継子也か。母也。是も小
上りゆきでて日本國也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

亦國家也。也。也。也。

一吉家也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

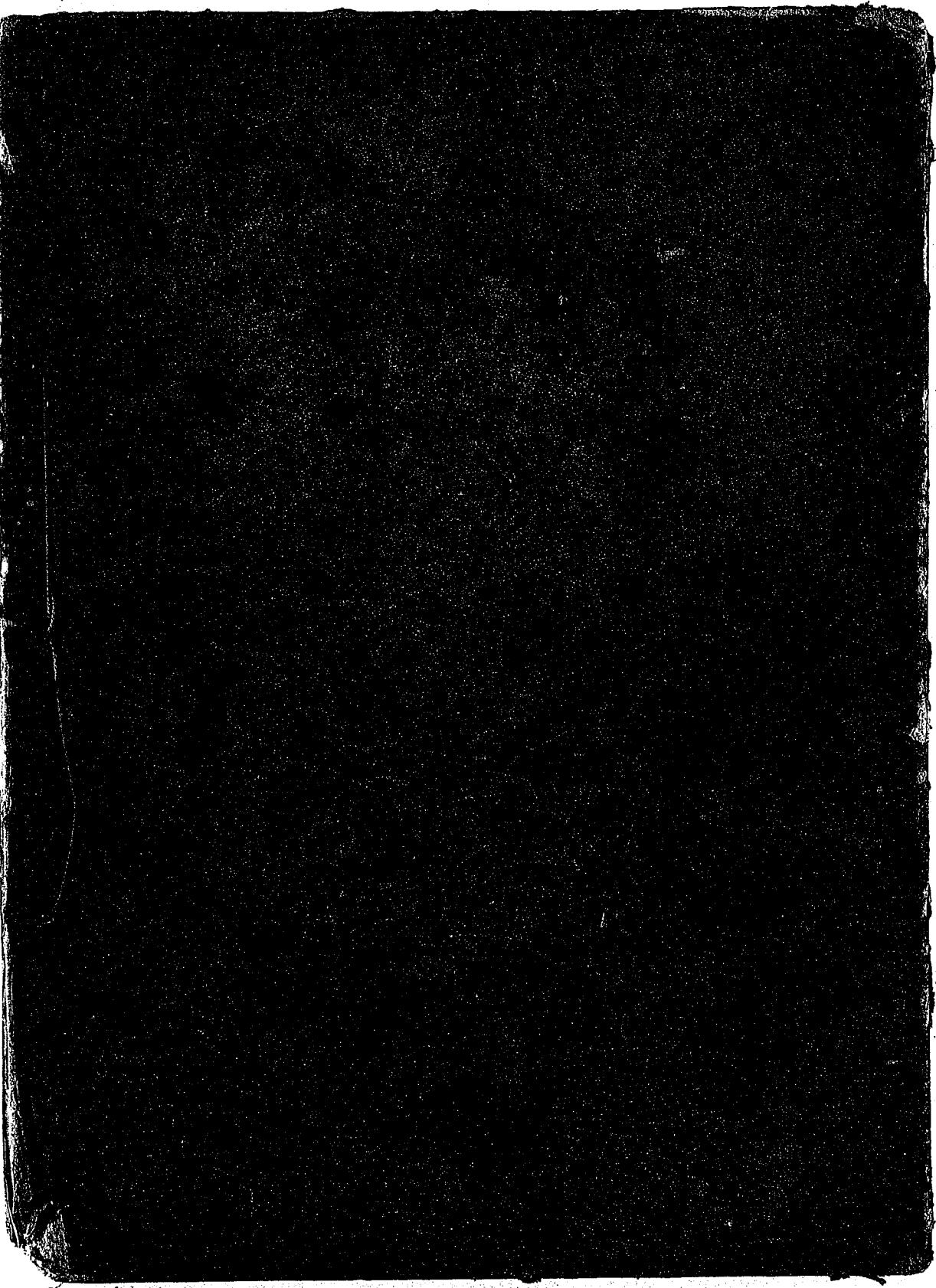
ノ
ノ
ノ



2 3 '県立耐久高校所蔵 梧陵文庫
資料 番号 和38-2-279-5

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2

2 3 ' 県立耐久高校所蔵 梧陵文庫 資料 番号 和38-2-279-5



7 8 9 [10] 1 2 3 4 5 6 7 8 9 [10] 1 2 3 4 5 6 7 8 9 [10] 1 2